

1. 評価結果概要表

作成日 平成19年6月15日

【評価実施概要】

事業所番号	2371001294
法人名	株式会社 山市
事業所名	グループホーム グリーンハウス
所在地	名古屋市市中川区前田西町二丁目912番地 (電 話) 052-309-7501
評価機関名	福祉総合調査研究機関 株式会社ヤトウ
所在地	名古屋市中区金山一丁目8番20号 シャローナビル7A
訪問調査日	平成19年5月11日

【情報提供票より】 (平成19年4月20日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和 (平成) 16年 7月 1日
ユニット数	2 ユニット 利用定員数計 18 人
職員数	17 人 常勤 6人, 非常勤 11人, 常勤換算 6.1人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨ALC 造り
	2階建ての 1~2階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	45,000・48,000 円	その他の経費(月額)	30,000 円	
敷 金	有 (円) (無)			
保証金の有無 (入居一時金含む)	(有)(200,000 円) 無	有りの場合 償却の有無	(有) / 無	
食材料費	朝食	250 円	昼食	400 円
	夕食	450 円	おやつ	200 円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要(平成19年4月20日現在)

利用者人数	18名	男性	4名	女性	14名
要介護1	7名	要介護2	5名		
要介護3	6名	要介護4	0名		
要介護5	0名	要支援2	0名		
年齢	平均 83歳	最低	70歳	最高	95歳
協力医療機関名	児玉内科				

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

オーナーが地元の人ということもあり、地域との結びつきが強く、今後の地域密着への働きかけが進んでいる。近隣の幼稚園との交流、小学校の体験学習等があり地域に根ざしたホームが期待される。管理者は栄養士の資格を持ち、日々の栄養に気を配っている。楽しく、ぬくもりのある雰囲気の中で、幸せを感じる場所として利用者や家族の皆様の安心を得ている。管理者は今後ショートステイを視野に入れて、地域の人が安心でき、落ち着ける場所として利用してもらえと地域への開放に意欲を持っている。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の評価結果について職員に説明し理解を得ている。各フロアに理念が掲示され、幼稚園児との交流や小学校の運動会の見学、町内のお祭りに参加する等、地域との交流に取り組んでいる。日中、玄関やフロアの施錠については、安全を重視し現在も施錠している。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	評価の意義を全体会議で説明し、全職員で自己評価に取り組んでいる。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は今までに3回実施している。会議では、ホームの現状や外部評価の結果について報告し、意見をもらったり、協力をお願いしている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	玄関に意見箱を設置しているが活用されておらず面会時に声をかけ、相談しやすい雰囲気作りに心がけている。家族アンケートの結果については、会議で話し合い、改善に向け取り組み、家族にもその旨を報告をしている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	町内会に加入しており、地域の会合に参加している。幼稚園児の訪問や小学校の授業の一環として訪問の受け入れ、小学校の運動会を見学しに行っている。町内の祭りにも参加した。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「楽しい施設を創ります。ぬくもりのある雰囲気をつくります。幸せを感じることができる場所にします。誰でも利用できる、開かれた施設を創ります。」を理念としている。	○	地域密着型サービスとしての役割を目指した表現を織り込んだ理念の検討を期待したい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	各フロアに理念が掲示してあり、月1回の全体会議で具体例を交えた話し合いをし、実行して意識づけをしている。社員には理念を記入した用紙を渡している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	幼稚園からの訪問、小学生の授業の一環として訪問の受け入れ、運動会の見学に参加している。昨年、地域活動に参加し町内にある公園のお祭りに参加した。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の意義を全体会議で説明している。前回の評価結果をスタッフから質問を受け説明をし理解を得ている。家族のアンケート結果についてフロアミーティングで話し合い解決している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は今までに3回実施している。会議では、ホームの現状や外部評価の結果について報告し、意見をもらったり、協力をお願いしている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	区役所に書類の手続き等で訪問することはあるが、市との連携は積極的には行われていない。	○	市の担当者に事業所の考え方、運営や現場の実情等を積極的に伝える機会を作り、運営の実態を共有しながらサービスの質の向上に取り組んでいくことを期待したい。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	ホーム便りは発行してないが、毎月個人の生活の状況を詳しく手紙に記し、行事の時の写真等を添えて家族に送付している。年2回家族会を実施しており、ホーム開設記念や12月のクリスマス会の行事に家族も参加している。金銭管理については、家族会や面会時に出納帳を確認してもらっている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置しているが活用されておらず、面会時に職員が家族に声かけして、相談しやすい雰囲気作りに心がけている。家族アンケートで出た意見については会議で話し合い、家族へは、取り組み状況について報告している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	新人職員には、2～3週間の見習い期間を設け現場体験してもらっている。職員交代には引継ぎ期間を十分にとりスムーズに移行できるように実施している。朝と帰りの挨拶は2ユニットの入居者全員の顔を見て行っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所の研修は正社員、パート職員双方にできるだけ参加してもらっている。職員には自主的に研修に参加してもらいたいと考えている。研修資料は閲覧されている。管理者が現場で直接指導することもある。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	名古屋市認知症高齢者グループホーム協議会に参加して情報交換をしている。また、区の福祉事業者連絡会にも参加している。事業者同士協力しながらホームの質の向上に取り組んでいる。		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人が入居することを理解して雰囲気に慣れるように1週間くらい体験入居を実施している。家族の面談時に本人がホームで他の入居者と一緒にお茶を飲んだり、歌を歌ったりすることもあり、少しでも馴染んでもらえるよう取り組んでいる。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者が食器洗いや下膳を自主的に行い、自分たちが単に支援されるだけの立場でなく、共に暮らす同士として感じている。掃除では、入居者がモップがけや雑巾がけ、掃除機等得意な分野で仕事を行っている。花壇の手入れや野菜作りも参加している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は日頃の行動や言葉に注意を払い、入居者の思いを聞き取るようにしている。入居者のいつもと違う行動を見落とさず、管理者と職員が協力して、入居者の思いを理解するよう努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	現状を担当職員から聞き、個人記録を見ながら、その時点に沿った個別具体的な介護計画を作成している。事前に家族からの聞き取りを行い、管理者が入居者と話し合い、希望や思いを聞いている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は3～4カ月毎に見直しをしている。大きな変化があれば、その都度フロアミーティングで検討し、変化や要望等が無い場合でも、職員間で意見交換し、入居者の状況を確認している。少しの気付きも大切に介護計画への反映に努めている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	今後、新規事業の検討をしていきたいと考えている。	○	空きベットを利用しショートステイとして活用していきたいと管理者は考えており、取り組みに期待したい。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関への受診支援はできている。家族も提携医に相談しやすい環境を作っている。提携医と連携がとれており、提携医が不在の時には、提携病院から他の医療機関に連絡がいき、対応してくれる体制ができている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	6月に同意を得て体制を整えていく予定をしている。今後、提携医と重度化や終末期に対して対応できるようにしていきたいと考えており、現在対象になる人はいないが本人と家族と共に話し合う機会を検討している。	○	今後整えていく予定をしており、重度化した場合や終末期のあり方について、事業所として対応方針を明確にした上で、入居者本人や家族、職員、提携医と十分な協議をしていくことが期待される。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報取り扱いをしていない	職員は入居者の誇りとプライバシーを損なわない対応に努めている。運営会議のコンサルティングでもプライバシーについて話されていて職員への周知もされている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースに沿って、せかさず職員自身もゆったりと見守りながら一緒に生活している。行事やレクリエーション等、色々参加する場面があり周りの入居者の思いにも配慮しながら支援している。入居者からドライブの希望が出た場合も、できるだけ対応している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事を通して、様々な意見や気持ちを大切に取組んでいる。家事への参加は自主参加で配膳、下膳、米ときなど出番があり入居者は自分に合ったことに参加している。個人に合わせて盛り付けがされていておかわりも自由である。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は、入居者の希望に応じて対応している。ユニットバスとジャグジー付チェア浴槽とタイプの違う風呂があり、入居者が自由に選んでもらっている。入居者の意向を第一に、寛いだ気分で入浴ができるよう支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食事、おやつ作り、掃除、花壇の手入れ、習字などの作品作り等の役割や楽しみごとはその人の能力に合わせてやってもらっている。ユニットの対抗運動会や競技大会も実施していて、皆で可能な外出や散歩も行っている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天候の良い日に散歩に行ったり、食材の買物や外食に出かけている。餅つきや夏祭り、ドライブツアー、同法人のデイサービスセンターに出かけている。温泉ツアーも実施している。今後は電車に乗って一駅ツアーも考えている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	入居者の徘徊を防ぐため、家族とも相談し日中、フロアや玄関を施錠している。代わりにベランダや庭に自由に入出入りできるようにしている。	○	鍵をかけないことの大切さについて話し合いの機会を持ち、鍵をかけないで、安全に過ごせる支援の検討を期待したい。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年に一度、避難訓練を行っている。飲み水は十分に保管しているが、食糧は保管場所がないので検討している。	○	消防署の協力を得て、地域の人達との共同訓練の実施を期待したい。災害時の備蓄に関しては現在検討中であることから、職員と話し合い、十分な備蓄を図りたい。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの1日の栄養や水分の摂取は大まかに把握されている。水分摂取は1日5～6回で、1～1.30程を目安とし、栄養については管理者が栄養士であり、時々点検をしている。季節の野菜等は隣の畑から収穫している。おやつに果実を多く取り入れている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間には、テーブルとソファが置かれ、自由に入りができるようになっている。窓の外には畑が広がり、開放感がある。トイレは広く、落ち着きがあり、壁には鯉のぼりや花菖蒲等の季節の作品が飾られていた。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、入居者の思いのこもったタンス、椅子、机を持ち込み、好きな花、家族の写真、目覚まし時計、手作りの作品等が置かれていた。ベッド使用に危険のある方は家族と相談して、床にマットを敷き布団を敷いている。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。